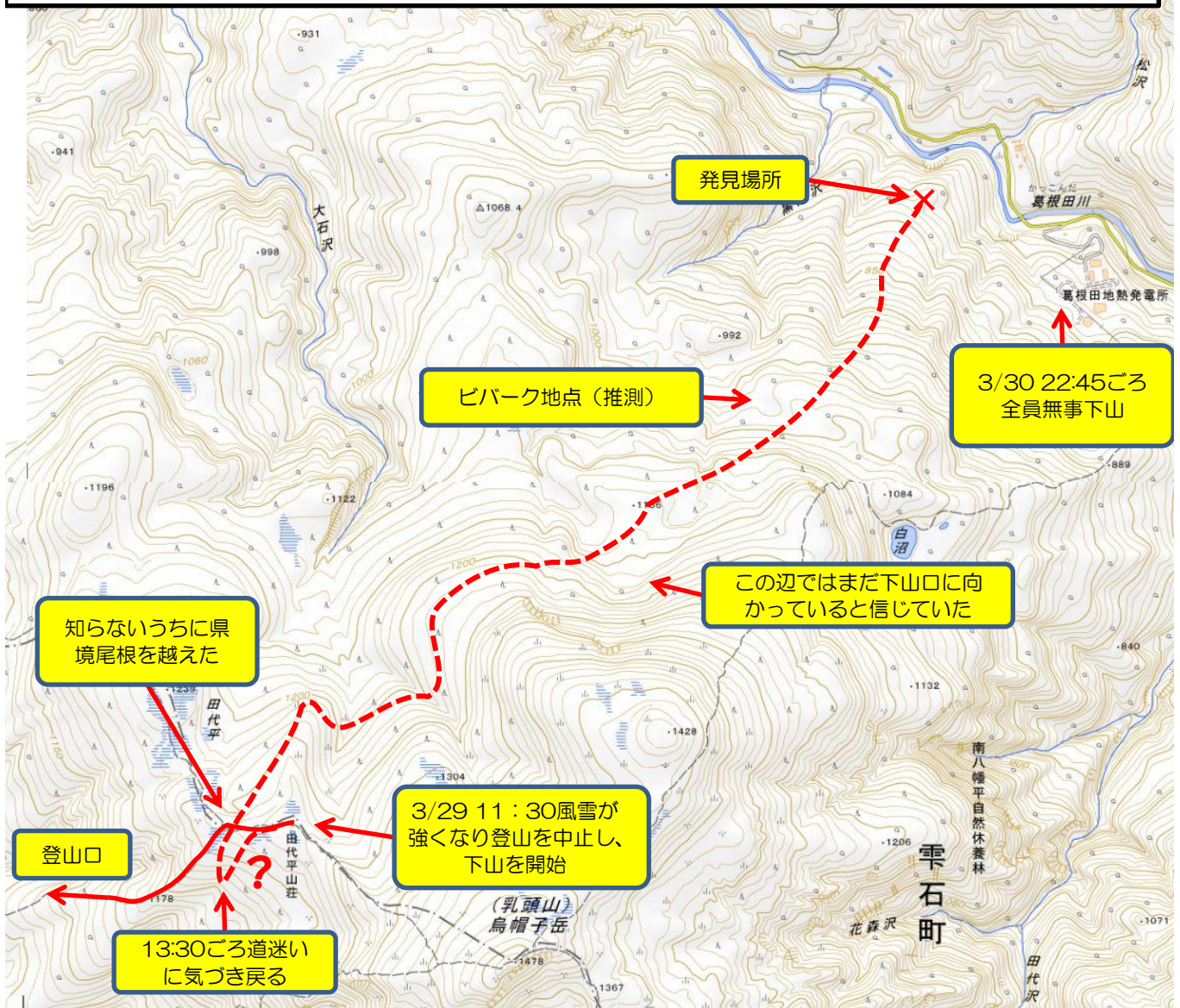


## 乳頭山遭難(2005年3月)

中高年登山グループ43人の遭難。残雪があり、目印に立てた標識が分からなかった。昼過ぎに道に迷ったことに気づき、戻ったが、方向を見失った。翌日メンバーの一人が下山し救助を求めた。



### 解説

ビバーク翌日に携帯電話が繋がりと、「蟹場温泉(登山口)に向かって下山中」と警察に連絡。しかし、現在位置が間違っていて捜索に混乱が生じた。自力下山は困難とリーダーが判断し、登山経験が豊富な者1名が先行して下山した。先行者は自分の現在位置がおおよそ把握できていたようで、葛根田地熱発電所を目指した。13時55分発電所で電話を借りて自宅に連絡。

乳頭山の田代平付近一帯は「迷い尾根」ともいわれ、尾根と谷筋のはっきりしない、迷いやすい地形が広がる。

風雪のため、登山時に設置した目印の標識が見つけれなかったのだろう。「下れば必ず孫六温泉に着けると思っていた」と遭難者が語っていたが、**道迷いとは『根拠のない強い思いがより重大な遭難を招いてしまう』ことを肝に銘じたい。**

また、大勢のグループで登山するから安心というわけではなく、一人一人が道迷いに注意し行動してほしい。